# 未来ある農業に向けて

## ～栽培実証ほ調査事業を活用した取組み～

### 地域の課題解決に向けて

農村地域では人口減少や高齢化を理由に、農業を続けていけるか、農地を守っていけるかといった課題に直面している。

課題を解決するひとつの手段として、「農地整備事業」がある。ほ場の大区画化や用排水施設、地下かんがいの整備を行うことで、ほ場条件を向上させ、農地の集積・集約を目指すものだ。これにより、少人数での農地管理や水稲作業の省力化を図ることができる。

省力化により生まれた時間を活用し、新たに高収益作物に取り組むことで収益の向上が見込める。農地整備事業などを契機に高収益作物に取り組むにあたり、その地区にあった品目を模索し、実証する取組みが「栽培実証ほ調査事業」である。

### 高収益作物への取組み

高収益作物に取り組む際に、品目選定、栽培、管理などの知識・技術がない状態では収益に繋げるのが困難である。

そこで、「栽培実証ほ調査事業」を用いることで、県の農業技術普及課やＪＡ、土地改良区などの支援のもと、新たな品目栽培の検証が可能となる。例えば、高収益作物が気候や土壌に合うかを試験栽培し、その地域での可能性を探ることができる。また、安定した生産のための管理方法の実証、販路の開拓を行うこともできる。

庄内地域でも農地整備事業に併せて、多くの地域で「栽培実証ほ調査事業」を活用している。実証の中で、収穫や出荷調整にかかる労力不足、販路の確保が困難など、様々な課題がありながらも、農業収益の向上や技術の向上に期待を寄せながら高収益作物に取り組んでいる。

# にらへの挑戦

## ～鶴岡市金森目地区～

にらの収穫

### これから

農地整備事業の進行とともに、地区内に高収益作物への取組みが浸透していくことを野口さんは期待している。「多くの担い手で協力し、集落営農を目指して、高収益作物に取り組めるようになりたい。」と希望ある未来を思い描いていた。

### いま

耕作者の野口さんは、2 年前から 0.45ha の面積で加工用にらの栽培実証に取り組んでおり、栽培技術の向上に手応えを感じている。

収穫機を使うことで収穫時間は短縮できたが、出荷条件であるにらの向きを揃えるための選別、梱包作業に手間がかかっている。いかに収益性を向上させるか、販路拡大も含めて模索中である。

野口與惣右衛門（のぐちよそえもん）さん

にらの選別

関係組織との打合せ

# にんにくへの熱意

## ～遊佐町大楯地区～

にんにくの植付け

実証ほの様子

### いま

耕作者の池田さんは、遊佐町の在来種である「紫六片（むらさきろっぺん）」というにんにくを約 60 年にわたり栽培してきた。池田さんは紫六片の作付規模を拡大し、遊佐町内に広めていくことで、栽培農家を増やし、紫六片を守っていきたいと考えている。

地下かんがいが整備されたほ場で用排水管理を実証する事業 1 年目の令和 6 年は、0.3ha に種の植付けのみ行った。排水の良さを実感しており、夏の収穫に期待を寄せている。

紫六片

・赤紫色の見た目が特徴
・普通のにんにくと比べ、風味がよく、実も大きい

### これから

池田さんは、岩手県の在来種である、「八幡平バイオレット」の視察に行きたいと語っていた。「知名度も高く、品質もいいと聞く。栽培、管理、販売方法を参考にしたい。」と更なる技術向上を目指していた。

池田（いけだ）隆（たかし） さん